

仏教福祉学科への願望

志 田 洋 子

1、MSWとしての体験

私はおよそ40年、福祉の世界で最も基本とされる相談業務にたずさわりました。その多くを病院という場でMSW（医療ソーシャルワーカー）の役割にあたりました。

日本の病院でMSWがおかれるようになったのは戦後、民主主義の考え方がひろがり、個々の人間の権利を大事にするようになったことと重なっているようです。「病気を治す」という病院のなかで、「病気をもち人間」の立場を考えうけとめる役割がみとめられ海外の実践に学ぶ形で導入された、と受け止めております。日赤や社会福祉法人の経営する病院にまずひろがったということも特長づけられることでした。私は大学で福祉を学び最初の職場としたのは県立の結核病院でした。当時は不治の病とおそれられ、国民病とまでいわれた難治の病でした。ここで入院される患者さんの相談にのり悩みごとにこたえその解決のお手伝いをする役割に忙殺される日をすごしました。

長い闘病になるかもしれない患者の身になったとき、病そのものに対する不安にあわせて職場のこと、家族のこと、

仏教福祉学科への願望（志田洋子）

つちかかってきたたくさんの人間関係のこと、これらをどう対処したらよいかという数えきれない重荷を負い悩んでいることをみせられるのです。病気のことには医師や看護師にたよりお願いすることになるが、その他のことはどこに持ちこんだらよいか、そのことが不安のままでは安心して療養もできない、病気そのものの治療もままならないという状態になりがちです。これらの重荷をすこしでも軽くするお役目、それがMSWでした。自営の方は店が心配で自分がいなくてはとこっそり無断外出する方もできます。長くなれば夫婦関係にも影響してまいります。人間というのは多くのつながりのなかで生きているものであり、そのつながりがもろくくずれていくことも多いのが病にとりつかれた時です。そしてまた病をさかいにより強固なつながりを深めぬりこえていく夫婦も多く見受けられる場でもありました。その人間が日ごろどんな考えで生きてきたか、家族をどれだけ大事にしてきたか、他人とのつきあいのなかで相手のことを考えるゆとりをもっていたか、といった生き方そのものが問われる場でもあることを何度も思いしらされたのです。人間の強さも弱さももろにあらわになる相談室でした。MSWという職場をとおしてたくさんのことを学びとらせていただいた喜びを感じています。

2、宗教のちから

ここで考えさせられることのひとつは信仰の意味です。なんらかの宗教に帰依しその考え方を大事にして日々の生活を過ごしてきた方は人生の大事にあたって前向きに受け止め明るく生きようとする場合が多いということなのです。なんとも立派な方であることよと感心させられるときにその背後に深い信仰心を感じさせられることが多いのです。同時にMSWとしての仲間のなかにも尊敬できる方にはきちんと宗教をもっている方が多いことにも気づきます。

たくさんの人々の悩みを受け止めその重荷を共有し寄りそっていく役割は実にしんどいものです。いわゆるストレスがつま重なります。同じ立場の仲間がおらずひとりりで相談室をあずかる身には負担がもろにあらわになります。患者の立場にたつとき他の医療チームに対立することになる場合もあります。このとき乗り越えるエネルギーがどこから生まれるか。宗教をもつ人はここで強さを発揮します。黒子のような役割をきちんとはたすためにも、他から評価されることのすくない職域に身をおきつづけるためには辛抱が大事になります。宗教がその役をになってくれる場合が多いように思われるのです。福祉の世界は多くこうした認められることのすくない職域です。この職域に前向きになって身をおき持続するエネルギーを持ちつづけるには宗教は大きな存在になるのではないかと考えさせられるのです。

3、仏教福祉の重味

本学にこのたび仏教福祉学科がもうけられました。仏教福祉なんとすてきな名であることよと思うひとりです。単なる社会福祉学科ではないところに意味をみつけたと思います。仏教の考え方をきちんと基礎教養としておさめたうえで福祉の専門性を修得していくことの重みをおもうのです。福祉の現場でもとめられる人材の養成というねらいにも実に近い役割をはたせる可能性をもっています。

単なる介護福祉士であり保育士であるならば二年の専門校でとりうる資格です。そこを四年の学習のなかでみかき重ねるものはなになのか、社会福祉士という国家資格をとるための受験資格がえられる、というところにまずポイントがあります。加えて仏教の教えをしっかりと身につけている、ということが本学の特長になるのである、と申せましょう。

仏教を学ぶにふさわしい霊地にキャンパスがあるという幸運があります。一流の仏教の教えを身につけた僧侶の方々を間近かに接することができるというすばらしいチャンスに恵まれているのです。このなかで四年間学ぶことのできる有形無形の価値というものは、これは他大学には得られないものです。この大事なものを身につけたうえで福祉の学びを己のものとされた学生はきっと社会の歓迎にあうことでしょう。

今、介護施設等では高齢者の直接お世話にあたる役割に加えて認知症などの多くの障害をもつ高齢者の相談相手にあたること、介護に悩む家族にとってもたよりがいのある専門職であることもがもとめられます。私のMSWの職域に非常に似てきています。仏教の教えをおさめた人材の出番であるといえましょう。

保育の現場も同じです。単に子どもとの相手が上手である、というだけでは十分ではありません。子育てに悩む地域の親達の相談にものりうる人間性がもとめられます。どこの園にも子育て支援センターの機能があわせ持つようもとめられる時代です。仏教の考え方を己のものとされた本学の学生ならこうした期待にもこたえうることになりました。

仏教福祉を学んだ学生をぜひ紹介してほしいという声がたくさん現場からあがる日を夢みているものです。長い歴史と伝統のなかでつちかわれた本学の仏教学部はすばらしい教師陣にめぐまれています。この方々のお力をいただいて日本中から注目される仏教福祉学科に発展していくことを心から願っています。

〈参考資料〉サービズ評価と質

介護保険法が施行されて最も大きな変革は福祉サービズ提供体の多様化であります。これまでは社会福祉法人のみ

に限られていたものが企業もふくむNPO法人等にいたる事業体がとりくむことがみとめられたのです。さらに行政からの措置として決定されていたサービス利用についても利用者本人の選択によることになった点でしょう。消費生活における商品同様に選ばれるということでもあります。

利用者の視点で良いサービスを提供しているかどうか選ぶときの目安となる基準づくりも大事なものになります。ここに静岡市保健福祉介護総合政策審議会介護保険専門分科会適正化調査部会(部会長志田利)がとりくんでいるサービス評価基準づくりとその基準にもとづいての実地調査の結果が広報紙にとりあげられ市民に周知がはかれることになりました。その項目のなかでサービスの質に関する事項をあげさせていただいて参考に供したいと思います。この部会には公募による市民代表も加わって長い時間をかけて検討されております。市民の眼でどんな点が選ばれるポイントになるかが判るものと考えます。

介護現場に貢献する人材を養成する立場からも学習指導にあたる際の大事な資料になるものと思っております。本学としても市民から評価される人材を育てていくことが課題となります。加えて仏教福祉学科として仏教のおしえを大切にした教育のあり方が問われる立場でもありますのでこうした評価基準はなよりの他山の石となるものであります。

サービス評価基準(抄)

大項目①サービスの内容、水準の確保

中項目①利用者本位のサービスの提供

小項目①サービス情報の提供案内(略)

仏教福祉学科への願望（志田洋子）

②入所時の対応

確認事項①契約書雛型を入所日より前に渡し内容を確認する時間を提供している

確認のための材料

①契約書雛型がある

②マニュアルに契約書雛型を入所日より前に渡すことを記載している

確認事項②重要事項に関して事前に説明し書面により同意を得ている

確認のための材料

①事前説明面接時の記録がある

②利用者本人に判断能力の障害が見られる場合に家族、代理人、成年後見人等との契約が行なわれた書類

（または第三者の立合人を求めた契約書）がある

③重要事項に関して同意したことを示す文書がある

小項目③職員間の連携（畧）

小項目④終末期ケアの実施

確認事項①利用者家族またはその代理人の希望に基づいた終末期のケアの対応をしている

確認のための材料

①終末期のケアの実施に関する医師の意見書がある

②終末期のケアの対応を記録したマニュアルがある

③ 終末期ケアに関する研修の記録がある

④ 終末期対応の利用者家族または代理人の意向と同意の確認文書がある

確認事項② 終末期において特に精神的ケアへの取組みをしている

確認のための材料

① 精神的ケアの対応を記載したマニュアルがある

② 精神的ケアに関する研修実績記録がある

小項目⑤ 認知症高齢者支援（畧）

小項目⑥ 個人情報の開示と説明（畧）

中項目② 具体的介護行為評価

小項目① 入浴サービス

確認事項 入浴サービスの実施にあたって、利用者の状態像に応じて柔軟に実施できる仕組みがある

確認のための材料

① 入浴前のバイタルチェックが記録されている

② 利用者の希望の入浴方法（一般浴、特殊浴槽、リフト浴など）を把握した記録がある

③ 個浴がある

小項目② 排泄（畧）

③ 食事（畧）

仏教福祉学科への願望（志田洋子）

④健康（畧）

⑤衣類（畧）

⑥褥瘡予防（畧）

⑦口腔ケア（畧）

○紙面の都合上省畧する項目が多いがあわせて一五〇項目のチェック項目が用意されていて客観的評価がしやすいよう確認事項とその確認のための材料を項目ごとに用意されている。

○事業経営者側と利用者側として双方でチェックし比較対象してみる実験も行っている。

○この基準をもとに現場に直接おもむいて点検をすることを重ね項目の整備をすすめている

〈考 察〉

○市民に实地調査を行った結果を公報にのせることで周知関心を高めようとしている。

○施設におけるサービス評価をおこなった成果をふまえ在宅サービスの場合の基準づくりをすすめることにしている。

○自治体においてこのような基準づくりをとおしてサービスの質の確保につとめるようつとめていることは注目される。

○事業者側もこうしたチェックをうけていくなかでさらにサービスの質の向上につとめることとなり直接処遇にあたる職員の質の確保に関心をもつことになる。

○こうした現場のうごきを適格に把握することにあわせてこのニーズにこたえうる人材を養成していくことがもめられる。

○単なる介護の専門技術を修得するだけでなく利用者の全体像をみつめる視点が大事になってくる。

○この視点をもつためにも仏教のおしえをもとにした人間全体（社会的存在としての）を読みとることのできる眼を育てていくことが本学の大きな課題となるのではないか。

○利用者本人はもとより家族そして地域社会の人々との対面する場での適切な支援力が現場にあたる人材の要素としてもとめられていく点ではないか、と考えさせられる。